

# 軍事絵葉書にみる言語現象

——荒井一壽の『從軍陣中生活』、『支那語早わかり漫画集』を中心に——

四 宮 愛 子

The Linguistic Phenomenon in Military Postcards:  
Focusing on “Military Life” (從軍陣中生活) and  
“Manga for Quick Understanding of Chinese” (支那語早わかり漫画集)  
Written by Arai Kazuhisa

SHINOMIYA Aiko

Arai Kazuhisa, war artist, created the post cards “Military Life: Japanese and Chinese Conversations and Educational Manga” (從軍陣中生活 日滿支會話入 教育漫画; 32 sheets in a set) and the post cards “Manga for Quick Understanding of Chinese: The Continental Expeditionary Army and Chinese Customs” (支那語早わかり漫画集 大陸派遣軍 支那風俗; 32 sheets in a set). Japanese and Chinese mixed expressions are written in these post cards, which are a rare phenomenon and limited in number. It can be said that these materials are valuable for considering language contact in East Asia. Therefore, these extant post cards need to be organized and re-evaluated as language materials.

In this paper, I will consider how can we evaluate “Military Life” and “Manga for Quick Understanding of Chinese” written by Arai Kazuhisa and analyse the language phenomenon in these post cards from the viewpoint of language contact.

キーワード：軍事絵葉書 言語資料 言語接触 ピジン 荒井一壽

## はじめに

本稿は、軍事絵葉書に見られる日本語と中国語の言語現象について、言語接触と文化交渉の観点から分析及び考察する。その研究対象として、荒井一壽画の『從軍陣中生活 日滿支會話入 教育漫画』(32枚一組)、荒井一壽筆の『支那語早わかり漫画集 大陸派遣軍 支那風俗』(32枚一組)を取り扱う。

## 1. 絵葉書の収集状況について

正確な時期は不詳であるが、過去日本が中国大陸北部に侵攻していた当時、写真やスケッチなど多種多様な軍事絵葉書が流通し、その全体像は不明であるがそれらの一部は現存する。しかし、『從軍陣中生活』や『支那語早わかり漫画集』のように、日本語と中国語が混交した表現が記されている絵葉書の事例は極めて少ないと言える。筆者が、現時点で確認できている混交表現が記載された軍事絵葉書は以下の3点、計68枚である。

- ① 『從軍陣中生活 日滿支會話入 教育漫画』（32枚一組）、荒井一壽画
- ② 『支那語早わかり漫画集 大陸派遣軍 支那風俗』（32枚一組）、荒井一壽筆
- ③ 内田慶市氏所蔵の絵葉書（4枚）



①『從軍陣中生活』と②『支那語早わかり漫画集』は、絵葉書の作者氏名として「荒井一壽」が明記されているものの、制作年、出版年は不詳である。また、発行部数、及びそれら絵葉書の当時の流通状況は明らかになっていない。

③は、作者、制作年、出版年が全て記されていない。そのため、③が①や②のようにセット・シリーズものとして制作された部分なのか、或いは、単独で描かれたものなのか、どのような人物によってどのような目的で描かれたのかが不明である。加えて、①②と③の絵のタッチは異なっている。

絵葉書を言語資料として扱った主な先行研究は、張守祥（2011）「『満洲国』における言語接触——新資料に見られる言語接触の実態——」、桜井隆（2015）『戦時下のピジン中国語——「協和語」「兵隊支那語」など——』がある。

張守祥（2011）は、荒井一壽の作品を含む計104枚の軍事絵葉書（漫画）を資料として取り扱い、それらテキストの分析を行っている。しかし、張守祥（2011）は、絵葉書104枚の一覧を提示しておらず、またそれらの作者、制作年、出版年についての詳細は述べていない。加えて、104枚には、日本語と中国語が混交した表現が書かれているもの以外の絵葉書も含まれている。これらについて大まかな分類と分析

はなされているものの、研究資料としての整理は、不十分であることが否めない。

桜井隆（2015）は、張守祥（2011）の研究を踏まえた上で、絵葉書の「研究資料としての可能性」について以下のように述べている。

ピジン中国語およびその兵隊俗語の入った漫画絵葉書は数が少ない。張（2012）は「これらの軍事郵便絵葉書（漫画）は合計で104枚で」（：56）<sup>1)</sup>としている。筆者の個人的な感触であるが、「満州」・中国関係で、さらに何枚かの漫画絵葉書が発見される可能性はあるが、この数が大きく増えることはないと思われる。

この種の絵葉書は見た目に華やかであるが、実体はプロパガンダであり、数も少なく、これをもとにしたピジン研究はさほど大きな展開は期待できそうにない。<sup>2)</sup>

上述の通り、現時点で確認できる日本語と中国語が混交した表現が書かれている絵葉書は非常に少ない。より多くの絵葉書を収集できる見通しは厳しく、それらの全体像を把握するのは難しい状況にあると言えるだろう。確かに、桜井隆（2015）が指摘するように、絵葉書の数のみに着目すれば、「これをもとにしたピジン研究はさほど大きな展開は期待できそうにない」のかもしれない。しかし、筆者は、接触言語の概念やピジンの定義を再検討するためには、少なくとも現時点で確認できている絵葉書を改めて整理し、それらを言語接触の資料として評価し直す必要があると考える。

## 2. 作者・荒井一壽について

絵葉書の作者である荒井一壽について整理する。接触言語が記された資料を研究対象として扱う場合、その資料がどのような目的や意図で記されたのかを把握するために、作者の経歴や語学の運用レベルを確認することは必要である。

管見の限り、先行研究において、荒井一壽が従軍画家であったこと以外に、その他の詳しい経歴は明らかになっていない。以下、現在の調査段階で明らかになった、名前の読み、長野県での軍隊生活、作品、中国語の知識について述べる。

まず、荒井一壽の名前の読みは、国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス、及びWebcat Plusには、「アライ カズヒサ」と書かれている。しかし、荒井一壽（1933）『のらくら新兵』伊林書店出版には、「アライ イチジュ」と記されている。

次に、荒井一壽は、満洲の他に、日本の長野県で従軍生活を送っている。その時の軍隊での生活風景を冊子『我等の軍隊生活：長野の教育繪ほどき』にまとめている。「起床」や「衛兵交代」、「面会」など軍隊での生活を絵葉書の形式で描き、それぞれ詩のようなコメントを記している。冊子で取り上げている生活場面は、絵葉書「従軍陣中生活」で取り上げられている場面と重複するものもある。また、この

---

1) 原文のまま。

2) 桜井隆（2015）『戦時下のピジン中国語——「協和語」「兵隊支那語」など——』三元社、151頁

冊子には、入隊当時の荒井一壽の写真が掲載されている。冊子の「本書を見て」では、荒井一壽が在營中の教官である陸軍歩兵大尉・田中義男が、荒井一壽の絵を以下のように評価している。

一体、人の楽しいとか、苦しいとかいふことは考へ方一つで、御馳走も食べ飽きれば嫌にもなるし、汗水流す軍隊生活も、ふりかへつて見た時には、皆楽しい思出になるものである。

楽しい氣持で奮闘することが、其の人を進歩向上させて益々愉快的境遇に導き、苦しさに負けて不平をいひ、嫌々生活する人は、益々失敗のどん底につき落される。

お互いに楽しい氣持で生活しやう「笑ふ門には福來たる」だ。

荒井君の在營中、上下の愛敬を受け同僚の信望厚かつたのは、全く總ての事を喜んで進んでやつたお蔭で、一枚々々の繪に良くその氣分が現はれてゐる。

この氣持こそ、多くの人々に味つて貰ひたい所である。<sup>3)</sup>

そして、荒井一壽の作品をまとめたものが表1である。

表1：荒井一壽の作品一覧<sup>4)</sup>

	著作	出版年	出版社
1	『突貫小僧漫画大會』	1932	日昭館書店
2	『のらくら新兵』	1933	伊林書店
3	『我等の軍隊生活：長野の教育繪ほどき』	1939	長野紙工文具出版部
4	『オッサンの火の用心』	1946	明朗出版社
5	『少年兵隊 爆弾漫画 三勇士』		
6	『ニコニコ漫画倶楽部』		
7	『漫画 笑ひの百貨店』		
8	『戦争漫画 少年爆撃隊』		
9	『漫画の樽詰』		

表1から、荒井一壽は、軍事漫画を数多く描いていることがわかる。筆者は未見であるが、『のらくら新兵』の作品の宣伝広告には、表1の8『戦争漫画 少年爆撃隊』は、満洲の廣野を舞台に描いた作品であると紹介されている。荒井一壽は、満洲での従軍経験をもとに絵葉書『従軍陣中生活』、『支那語早わかり漫画集』や『戦争漫画 少年爆撃隊』を描いたと考えられる。また、その経験から満洲での生活や風俗、或いは中国人や中国語について、ある程度の見聞を得ていたと推察できる。しかし、荒井一壽の中国語の運用レベルや学習歴の有無については、まだ明らかになっていない。

なお、荒井一壽は、複数のペンネームを使用していた可能性が考えられる。荒井一壽は、『のらくら新兵』を著しているが、「湯浅彗策」という人物が1935年に春江堂から『のらくら大海戦』を出版してい

3) 荒井一壽 (1939) 『我等の軍隊生活：長野の教育繪ほどき』

4) 筆者が調査し知り得た範囲でまとめた作品一覧である。そのため、この他にも著作が存在する可能性がある。1、2、3、4の著作は、京都国際マンガミュージアム所蔵。5、6、7、8、9の著作について、筆者は未見である。

る。因みに、秋山正美（1998）は、「のらくら」を以下のように紹介している。

このころ、数多く出回っていた「のらくろ」のイミテーションのひとつで、主役の黒ワンの名は「のらくら」、陸軍ではなく海軍に入って海上で大暴れ、というところが「のらくろ」と違っている。（略）

ご本家の田河水泡の絵と比べたら、かなり見劣りがするけれども、水泡の「のらくろ」シリーズが定価一円、こちらは、その十分の一の金十銭ナリだから、売れ行きは決して悪くなかったのである。<sup>5)</sup>

ただし、現時点で荒井一壽と湯浅条策が同一人物であるかどうかは、不明である。

### 3. 絵葉書『從軍陣中生活』

#### 3.1. 言語接触の資料としての評価

絵葉書『從軍陣中生活』（32枚一組）は、言語接触の資料としてどのように評価できるのかを検討する。

所謂ピジンは、2つ以上の言語を異にする集団が接触をした際に、コミュニケーション手段として用いられる間に合わせの口頭言語である<sup>6)</sup>。そのため、ピジンが資料として記録されることは非常に稀であり、現存するピジンの資料は限られている。それ故に、現状では、言語接触における資料としてどのように評価できるのかが十分に検討されないままに、ピジンの研究が行われているのではないかと懸念される。

まず、桜井隆（2015）は、制作年について、絵葉書（表2の29「日満親善」）に描かれている「満州国」の「国旗」、及び兵士の軍服が「昭五式」であることを基に、1932年から1938年までの間であると推定している<sup>7)</sup>。

次に、張守祥（2011）は、絵葉書を以下のように評価している。

これらの絵葉書は「満洲国」時代の軍隊生活、現地人との交流場面（食生活、買物、学習、遊樂、理髪、乗車、交通整備など）を描写しているだけでなく、登場人物の会話内容も文字化して記述されているのである。（略）

芸術は天から落ちるものではなく、生活から来るものである。生活原型がなければ、芸術家にも創作のインスピレーションは現れない。軍事郵便絵葉書（漫画）の創作も芸術活動の一分野として、現実生活からさほどかけ離れたものではない。<sup>8)</sup>

---

5) 秋山正美（1998）103頁

6) 斎藤純男ほか編（2015）『明解言語学辞典』134-135頁参照。

7) 桜井隆（2015）140-141頁

8) 張守祥（2011）55-56頁



一方、これに対し、桜井隆（2015）は、異論を唱え、「その絵がいくらかの実態を踏まえているにせよ、プロパガンダであることを認識していなければならない。」<sup>9)</sup>と述べている。桜井隆（2015）が指摘するように、絵葉書『從軍陣中生活』には、プロパガンダとしての要素も含まれているであろう。しかし、荒井一壽は、『我等の軍隊生活：長野の教育繪ほどき』において軍隊での生活を絵日記風に記録している。このことから、『從軍陣中生活』が現実生活のある程度反映したものであり、全てが創作と見なされるものではないと考える。

加えて、『從軍陣中生活』が、日本語や中国語の語学学習、或いは、日本語と中国語の接触言語、所謂ピジン学習の教材として使用された可能性についても言及しておく。絵葉書『從軍陣中生活』の表紙袋には、中国人と思われる男性が日本兵に何かを尋ねる絵と共に、「日満支會話入 教育漫画」と記されている。

張守祥（2011）は、日本語と中国語が書かれた絵葉書には、語学教科書としての目的があると述べている。

日本語と現地語入りの絵葉書（漫画）は語学教科書としての目的があるとともに、「満洲国」あるいは中国各地の社会事情（一輪車、苦力、木挽き）風俗文化（高足踊り、街頭理髪、客籠）などを日本本土へ伝えるといった目的もあったと考えられる。<sup>10)</sup>

以上、先行研究の指摘を踏まえ、『從軍陣中生活』を分析、検討する。

### 3.2. 分析

まず、『從軍陣中生活』に収録されている内容は、表2の通りである。

表2：絵葉書『從軍陣中生活』の収録内容一覧<sup>11)</sup>

1	外出	11	酒保	21	路上の會話	31	日曜の前夜
2	馬車	12	中隊當番	22	スケート演習	32	記念撮影
3	買物	13	路上の風景	23	豚饅頭		
4	班内の一時	14	中食時	24	洋車		
5	入浴	15	満人宅の食事	25	演習整列		
6	内務班掃除	16	洗濯	26	慰問袋		
7	歩哨の訊問	17	兵器手入	27	馬場		
8	食事	18	不寝番	28	輸送列車		
9	月例検査	19	起床	29	日満親善		
10	治療	20	満人の子供	30	兵隊と農民		

9) 桜井隆（2015）148頁

10) 張守祥（2011）58頁

11) 番号は、絵葉書に記載されているものである。

張守祥（2011）は、計104枚の軍事郵便絵葉書（漫画）をテキストの形式によって、次の4種類に分類している。①満洲カナ表記の中国語＋日本語訳（24枚）、②日本語による会話文＋満洲カナ表記の中国語語彙リスト（32枚）、③日本語による会話文＋中国語訳付き（41枚）、④日本語のみによる会話文（7枚）。

本稿では、絵葉書『從軍陣中生活』計32枚を話者（会話場面）により、2つに分類する。32枚のうち、①日本人同士の会話は19枚、②日本人と中国人の会話は13枚である。その内容は、表3の通りである。中国人と日本人の会話が描かれているものの、約2/3は日本人同士の会話場面である。日本人同士の会話ならば、中国語を用いる必要はない。しかし、絵葉書では、日本人同士の会話でも正則の中国語、或いは、「正則の中国語に近いもの」を借用語のように取り入れて書かれている。この事実は、絵葉書に記載された日本語と中国語の接触言語が、全く荒唐無稽な表現ではないことを示す根拠になると評価できる。



①日本人同士の会話



②日本人と中国人の会話

表3：話者（会話場面）による分類

①日本人同士の会話	②日本人と中国人の会話
1「外出」、4「班内の一時」、5「入浴」、6「内務班掃除」、8「食事」、9「月例検査」、10「治療」、11「酒保」、12「中隊當番」、16「洗濯」、17「兵器手入」、18「不寝番」、19「起床」、22「スケート演習」、25「演習整列」、26「慰問袋」、27「馬場」、28「輸送列車」、31「日曜の前夜」	2「馬車」、3「買物」、7「歩哨の訊問」、13「路上の風景」、14「中食時」、15「満人宅の食事」、20「満人の子供」、21「路上の會話」、23「豚饅頭」、24「洋車」、29「日満親善」、30「兵隊と農民」32「記念撮影」

次に、中国語の専門家である中谷鹿二（1926）が、日本語と中国語の接触言語「日支合辦語」を体系的にまとめた小冊子『日支合辦語から正しき支那語へ』の目次には、「日支合辦語」の語彙44語が挙げられている。これら『日支合辦語から正しき支那語へ』の語彙と共通する、或いは、対応する『從軍陣中生活』の語彙をまとめると表4の通りである。計20の共通語彙が確認できる。表記（振り仮名）が異なるものもあるが、意味は同じ又は類似するため、共通語であると判定できるだろう。

また、表3「②日本人と中国人の会話」の2「馬車」、3「買物」、23「豚饅頭」、24「洋車」は、『日支合辦語から正しき支那語へ』にも取り上げられている「日支合辦語」が使用される場面である。

表4：『従軍陣中生活』と『日支合辦語から正しき支那語へ』の共通語彙<sup>12)</sup>

	『従軍陣中生活』	『日支合辦語から正しき支那語へ』	意味
1	ニデー	你的 (ニーデ)	お前
2	オデー	我的 (ワーデ)	自分
3	カンカン	看々 (カヌカヌ)	観る
4	ヨー	有 (ユー)	ある
5	メーユー／メイユ	沒有 (メイユー)	ない
6	テンハオー	頂好 (テンホー)	とてもいい
7	マンマンデー	慢々の (マヌマヌデ)	ゆっくり
8	プーシン	不行 (プシン) ぢやないか	いけない
9	クワイクワイデー	快々の (カイカイデ)	早く
10	シヤオシヤオ	少々 (シヨウシヨウ)	少々
11	ワンラー	完了 (ワヌラ)	終わった／完了
12	ホーワイラー	壞了 (ホワイラ)	駄目 (体を壊す)
13	タアタアデ／タアータアデ	大々の (ターターデ)	色々と／澤山
14	ライ	來 (ライ)	来る
15	チュイ	去 (チュウ)	行く
16	シンジヨ	進上 (シンジヨウ)	持って来る／くれ
17	ヤオー	要 (ユー)	いる
18	リイヤンモーチエン	一毛錢 (イモーセヌ) / 三毛錢 (サヌモーセヌ)	二十錢
19	ミンテン	明天 (ミンテヌ)	明日
20	トントンデー	通通 (トントン)	解った／皆 (すべて)

#### 4. 絵葉書『支那語早わかり漫画集』

##### 4.1. 『支那語早わかり漫画集』の構成

次に、『支那語早わかり漫画集』に収録されている内容は、表5の通りである。

絵葉書のセットには、全部で32の項目がある。各項目にはタイトルが付けられ、それと関連する中国語の語彙が約10個ずつ列挙されており、合計318の語彙が収録されている。中国語の語彙には、カタカナで振り仮名が付されており、加えて、それに対応する日本語訳が書かれている。

絵葉書に描かれている場所は、特定されていない。しかし、表5-3「親善」に描かれている建物（城門）及び「満洲国」の国旗、表5-30「理髮師」の語彙に挙げられている「胡同」、及び語彙や会話に「兒」が用いられていることから、満洲或いは北京の情景を描いているのではないかと推測できる。

12) 『日支合辦語から正しき支那語へ』の括弧内は、振り仮名である。



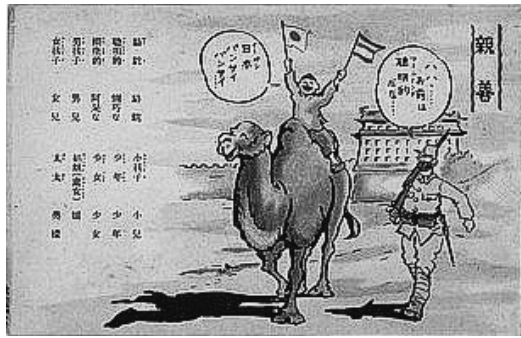


表 5-3 「親善」

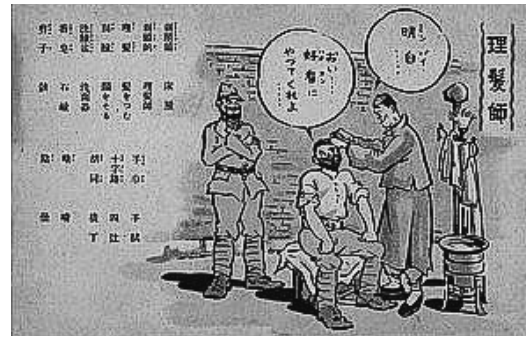


表 5-30 「理髪師」

表 5：絵葉書『支那語早わかり漫画集』の収録内容一覧

1	平和	11	野戦病院	21	靴直し	31	映画
2	太公室	12	一輪車	22	客櫓	32	家族
3	親善	13	洋車	23	敵状偵察		
4	警備	14	食堂	24	スケッチ		
5	春日	15	木挽	25	高足踊		
6	〇〇部隊	16	外出	26	農夫		
7	郵便	17	手榴弾	27	曲藝師		
8	高粱畑	18	待機	28	占者		
9	突撃	19	愛馬	29	苦力		
10	山岳戦	20	急用	30	理髪師		

『支那語早わかり漫画集』は語彙と会話が描かれているのに対し、『従軍陣中生活』は会話のみが描かれている。『支那語早わかり漫画集』の会話は主に日本語であり、そこに正則の中国語を外来語のように取り入れて使用している。その例は、表6の通りである。加えて、26「農夫」の「進上（シンジヨー）」及び29「苦力」の「快々の（クワイクワイデー）」の他に、中谷鹿二の「日支合辦語」と重複する語彙や表現は見られない。

表 6：絵葉書『支那語早わかり漫画集』の会話<sup>13)</sup>

	タイトル	人物	会話
2	太公室	日本兵	この河（ホー）で何にがとれるんだい……
		中国人	へへ、……大頭魚（タートウユイ）が釣れますよ……
16	外出	日本兵	さあ…中国菜（チュンクオツアイ）でも喰べに行こうか…
		日本兵	久し振りでお酒（ラオチウ）でも一杯やろうか……
28	占者	日本兵	おい…世辞はぬきで眞的（チエンテ）でみるよ…
		中国人・男性	日本兵（イーベンピン）運勢很好很好（ヘンハオー）……

13) 括弧内は、振り仮名である。

#### 4.2. 中国語学習書『支那語早わかり』について

上述の通り、絵葉書『支那語早わかり漫画集』の制昨年や制作の意図などは明らかになっていない。だが、荒井一壽が、当時流通していた中国語の教科書や書籍を参照していた可能性が考えられる。

1937年に朝日新聞社から大道弘雄（大阪朝日新聞東亜部）編の『支那語早わかり』が出版されている。この文献には、「日常および軍事に必要な主な単語と短話」<sup>14)</sup>が収められている。その収録内容は表7の通りであり、絵葉書の内容と重複するテーマが取り上げられている。まえがきには、中国語の発音についての簡単な解説がある。本篇の単語と短話は、正則の中国語であり、振り仮名と日本語訳が付けられている。

まえがきの解説には、「支那語の発音を日本の片仮名で正確に書き表はすことはむつかしい。しかし、本書の片仮名使ひの通り発音すれば支那人にわかる。」<sup>15)</sup>、「多少四聲が違つても通じる。」<sup>16)</sup>と述べられている。このことから、当時の中国語学習者が、「日本語的な中国語」、つまり、中国語の発音を片仮名で表記した振り仮名を参考にしていただことが窺える。

表7：朝日新聞社『支那語早わかり』の目次

第一篇 単語			第二篇 會話				
1	數	17	文房具	1	問ひ方と答へ方	17	偵察
2	度量衡	18	文書	2	日常の挨拶	18	訊問
3	貨幣	19	店舗・商業	3	天候について	19	徴發
4	日時	20	色彩	4	日時について	20	宿營
5	人稱	21	樂器	5	食事について	21	宣撫
6	身體	22	動物	6	衣服について		
7	病氣	23	植物	7	買物について		
8	藥	24	鑛物	8	商業について		
9	方角	25	交通	9	家について		
10	天文	26	教育	10	苦力、從僕を使ふ		
11	地理	27	官衛・官職	11	衛生について		
12	地名	28	軍事	12	交際について		
13	飲食物	29	人名	13	旅行について		
14	衣服	30	動作	14	乗物について		
15	建物	31	形容	15	道をきく		
16	家具	32	代名詞其他	16	軍事について		

#### おわりに

以上の分析、検討から導き出される内容をまとめると、次の通りである。

まず、絵葉書『從軍陣中生活』は、日本人や日本国内に向けて、日本兵の中国での生活風景を伝える

14) 大道弘雄編（1937）『支那語早わかり』朝日新聞社、1頁

15) 大道弘雄編（1937）1頁

16) 大道弘雄編（1937）4頁

「教育漫画」、つまりプロパガンダの側面があるといえる。

それら絵葉書に記載されている語彙表現は、中谷鹿二の「日支合辦語」と共通する語彙が確認できる。また、正則の中国語などが記載されていることから見て、実在したものであったと推測される。

しかしながら、同時に、そこに描かれている発話場面は、主に日本人同士の会話である。このことから、絵葉書『從軍陣中生活』が、コミュニケーション手段である正則の中国語やピジンを学習する教材として使用された可能性は非常に低いと考えられる。

加えて、日本人同士の会話ということや絵葉書が日本国内の日本人に当時の中国の様子を伝える「プロパガンダ」の要素があることに着目すると、日本人が意図的にピジンを創作したり、或いは、実際のピジンを記録したというよりは、中国語に対する日本人コミュニティの一定共通した認識が記されているといえるだろう。つまり、絵葉書『從軍陣中生活』には、当時の日本人が捉えた「中国語」が記載されていると言えよう。

ピジンが、言語を異にする者同士が使用するコミュニケーション手段としての「言語」であるという観点から見ると、絵葉書『從軍陣中生活』は、ピジンを記録した資料というよりは、寧ろ、日本人の間で使用されたジャーゴンが記録された資料であると評価できる。

他方、絵葉書『支那語早わかり漫画集』は、正則の中国語の単語が列挙されているのに加え、日本語の会話に正則の中国語を取り入れた形式で描かれている。一部「日支合辦語」と共通する語彙が見られるものの、主に正則の中国語が記されている。『支那語早わかり漫画集』と『從軍陣中生活』の作者は同じく荒井一壽であるが、絵葉書『支那語早わかり漫画集』は、接触言語が記された資料というよりは、中国語を学んだことがない者や初級者を対象とした正則の中国語の入門教材、或いは学習補助教材であると言えるだろう。

## 参考文献

- 中谷鹿二（1926）『日支合辦語から正しき支那語へ』大連滿書堂書店  
大道弘雄（編）（1937）『支那語早わかり』朝日新聞社  
山崎鑿一郎・編（1986）『復刻 満洲絵葉書写真帖』合資会社池宮商会出版部  
秋山正美（1998）『まぼろしの戦争漫画の世界』夏目書房  
松本零士／日高敏・編著（2004）『漫画大博物館』小学館  
新井勝紘（2011）「『軍事郵便文化』の形成とその歴史力」『郵政資料館研究紀要』第2号，1-17頁  
後藤康行（2011）「戦時下における軍事郵便の社会的機能——メディアおよびイメージの視点からの考察——」『郵政資料館研究紀要』第2号，55-74頁  
張守祥（2011）「『満洲国』における言語接触——新資料に見られる言語接触の実態——」『人文』第10号，51-68頁，学習院大学  
朴美貞（2014）『帝国支配と朝鮮表象——朝鮮写真絵葉書と帝展入選作品にみる植民地イメージの伝播』国際日本文化研究センター  
後藤康行（2015）「戦時下における通信博物館の軍事郵便展示（補論）——1939・40年の「興亜通信展覧会」——」『郵政博物館研究紀要』第6号，68-75頁  
桜井隆（2015）『戦時下のピジン中国語——「協和語」「兵隊支那語」など——』三元社

内田慶市（2017）「『鱒澤文庫』の稀覯本」『関西大学東西学術研究所蔵 鱒澤文庫目録（初稿）』内田慶市・吾妻重二・原田正俊・篠原啓方・氷野善寛（編）